

全國私立幼稚園教育研究大会を終えて



代 智 義 青 柳

日本私立幼稚園連合会も、創立されてから今年で六年になる。どんな事業でも必ず三年位は事業としての形態をととのえないと、組織的にならないものとされている。たが六年にもなれば、その準備的期間はどうに過ぎたのだから、形態もどとのい、組織化されて一応充実期にはいったものと考える。

連合会は現在傘下に全国二千校を集め、教職員数は一万余名の大組織体になった。

そして事務局を私学団体総連合会内におき、當時、小学校、中高、大学等の全国团体の

事務局と席を並べて、全日本私立学校の向上発展に提携し協力しているものである。また、全国都道府県にはすべて私立幼稚園協会が組織されている。連合会の下部団体として、地方色豊かな適切な事業を各自活動に遂行していることは心強くまた達しさを覚えるものだ。連合会は全国下部団体の連絡のために、毎月会報を発行して、連合会の活動状況を絶えず報告すると共に、地方各団体の活動状況を会員に悉知するよう

にしている。

この連合会も今日の組織体になるまでには先輩同志の永い献身的努力によるもので、隠れた功績に対し心から感謝を捧げ度い。また全会員の理解と協力に対しても感謝し度いと思う。殊に創設当時に全国組織化のために活動された同志に対しては感謝の念を禁じ得ないものがある。私立学校の行政が、民主化の線に添つて全面的に改められる状勢に対して、いち早くその対策を樹立するためには、私立学校の全国的な結集が求められた。小学校、中高等学校、大学等は率先して全国的団体を組織化し、実際に大同団結私学団体総連合会を結成して強

力に今後の私立学校の方向を研究決定して運動を展開している。その状勢は實に目覺しき限りである。それに対し幼稚園はどうか全く手がつけてない状態で、私立学校であり乍ら、全私立学校の活潑な動きからとり残されて行きつつあるのだから、誠に心細い思いをさせられた次第であった。

このままでは、幼稚園はどうなるか、私立学校の今後の運命が決定されつつあるとき幼稚園だけが発言権のないのは大変である。どうかして一日も早く、私立幼稚園を組織化し、連合会を創立して、私学団体の一翼に加えて貢つて幼稚園としての主張をしなくてはならない。全国組織へ、斯うして全国行脚に、また呼びかけに苦心と努力した思い出は、今でもつきないものがある。

幸い昭和廿四年には曲りなりにも、日本私立幼稚園連合会が創立された。また待望の日本私学団体総連合会にも、その単位団体として加入を承認された。強大な実力を有する私学団体総連合会に役員を送ったときの喜びは今でも忘れ得ないものがある。その後の私学の行政については、幼稚園は

及ばず乍ら、主張と協力をして來た次第である。

× × ×

全国私立幼稚園教育研究大会は日本私立幼稚園連合会としてははじめての試みとして今夏七月卅、卅一日の両日観光地別府に於いて開催されたものである。昨年五月に連合会の年次総会が、名古屋市外・犬山城址に於て開催された際に、全国から參集された代議員によつて、この研究大会の開催の件が緊急提案され、満場一致で賛成された。更に大分県私立幼稚園協会より、廿九年度総会を併せて、研究大会をも開催地として引受けけるとの力強い意志表示がされてこれまた全会一致で決定して、茲に本会としては初めての全教職員を招請するところの研究大会の開催が大決りになつた次第である。

特に研究大会の開催が要望された理由は、『私立学校教職員共済組合』が設立されて、全国私立幼稚園教職員にも、公立教職員と同じく健康保険と恩給制度の恩典が適用されることになつたため、教職員一同の生活上の安定感は測り知れないものがあつたのである。

斯うした事業は云々する余地のないことだから、誰しも反対はない、容易に決定されるものである。だが実施となると言葉で決定される程容易でなり、大変な事業である。だが私立幼稚園の向上発展のため、更に全教職員のために万難を排して計画し実行したい、実行しなくてはならないと、ひとしく決定に拍手をおこられた總会代議員は考えられたことと思つた。

その後、開催地である大分県私立幼稚園協会は、その会員数は廿數校に過ぎない、その準備のために代議員帰県と共に奮迅の活動を開始された。そして一ヶ年はすぎた結果してその成果はどうか、

懇々諸般の準備がととのえられ、先ず七月廿九日には別府二条館に於て、昭和廿九年度總会が、全国より參集した代議員、一六〇余名によつて開催された。定款による会を開催すると共に、日常の本務である幼児教育に対して一段の研究と精進を誓い度いとの趣旨であった。未だ連合会としては大規模な大会を主催するには幾分の困難も考へられるが、大会の開催を敢行することになつたのである。

斯うした事業は云々する余地のないことだから、誰しも反対はない、容易に決定されるものである。だが実施となると言葉で決定される程容易でなり、大変な事業である。だが私立幼稚園の向上発展のため、更に全教職員のために万難を排して計画し実行したい、実行しなくてはならないと、ひとしく決定に拍手をおこられた總会代議員は考えられたことと思つた。

研究大会は別府市公会堂が第一会場である、前夜から全国より參集の会員は別府の宿舎は統々として到着され、別府は幼稚園大会一色の氣分となる。大会当日は、定刻の九時には会場一、二階共に満員となつた壯觀である。準備のため活躍している委員諸氏は緊張のうちに喜びは隠せないようだ。当日船便で到着する全員のために、

一時間おくらせて、来賓諸賢を案内されていた県地元の司会者は、既に全会員が集合された会場をみられて、氣をもむこと、酷暑満員の会場につめられた会員の身になつてみれば待たされてはかなわないわけだ。

開会式で特に感銘の深かつたことは、来賓として煊席された大分県知事殿の祝辭であつた。知事の母堂は明治初年にはじめて鹿児島県に幼稚園が師範附属として設置されたとき、若き身を以つて遙々その幼稚園主任として官命によって、東京から赴任を命ぜられて、幼稚園教育に献身された、云はば開拓者の一人であることを語られて、特に本研究大会には深い喜びを持つことを以つて会員を激励して頂いたことだつた。遇然とは云え誠に嬉しい御祝辭だ。後で向うを通り、遍の文書祝辞を秘書の方が持参していたが、会場に望んでから、この思い出を語られた由、引続いて行われた、二〇年以上の私立幼稚園園長者、二七九名の表彰は、知事の語られた母堂の生涯と思いつわせて、一段と感銘深く、感激的な拍手のものとに表彰状と賞品が授与された。

開会式のあと研究大會議長、役員の選出

があつて議題の整理と提案を済ませた。午後は、左記の記念講演に移る。

▽幼稚園教育に望むもの

自由学園教授 羽仁説子氏

▽幼稚園教育の新しい方向

東京都立大学教授 山下俊郎氏

幼稚園教職員には指導的な極めて新鮮有益な講演であつた。両講師は講演後第一分科会の指導講師として、分科会にも出席して頂いて、また、文部省玉越三朗事務官には第二分科会に出席願い、議題協議の指導的な役割を果して頂いた。分科会の構成は▽第一分科会 教育内容に關するもの

▽第二分科会 経営管理に關するもの

分科会の議題は、全国府県協会より提案されたもので、その数は兩分科会共に、十數議題にて、どの議題も本連合会として主張問題であるが、何分余りに議題が盛沢山である。大会にて分科会に与えられている。大会にて分科会に与えられている。大會にて分科会に与えられている。議題のほほえましさ、親について移動して行く際の面白さ、会員一同珍しい動物の生態を観察することが出来て大嬉び、神経質な野猿をよくここまでならしたものだと感心もさせられる。高崎山にある山寺山主の愛情と努力によると云うが、全く人を恐れないようだ。

第一会場教育会館は創立以来、はじめての入場の由、分科会の報告次いで指導

して、また会員が研究資料として持ち帰ることも出来て、好評であった。

第二日は、大分市教育会館が会場となる。別府から凡そ二キロ位か、全会員は観光バスで大分市に向う。別府から大分への海岸線沿いの観光道路は美しく整備されていて快適な乗り心地、途中車を止めて高崎山に立寄り野生猿の棲息地を見学する。海岸から二、三〇〇米程はいったところ、全くの低地であるが、野猿が道傍に、樹上に安心しきった様子で出ている。投げ与えられた袋ごと取られた暴力猿に御難の先生もいる。仔猿をかかえた母猿も多い、親子の愛情のほほえましさ、親について移動して

講師団の羽仁、山下、玉越諸講師の適切な講評を頂いて会員一同研究討議に対して充

分な反省と光栄を添えることが出来た。

斯うして二日間に亘る研究大会は万事順調にすすみ、閉会式となる。開催地私立幼稚園協会に対する会員代表の感謝の辞そして

答辭、共に真情あふるものがあった。

特に地元の私幼として万般の準備をされ諸君の心情察するに余りあるものがある。順

調、無事成功裡に終了した喜びに、挨拶の言葉もつまる。会場より「螢の光」を以つてこの喜びと、明年度石川県金沢市の大会にまた再会を約し度いとの希望が出来る。実に同志的、感激的な閉会式であった。この團結意識こそ、連合会の特色であろう。私立幼稚園と云う一色の純粹さから、初めて生れ出るもので、他の色合いが加わると斯うした気分は到底生れ出でないと思う。

日本幼稚園界は、国公立と私立の両団体にて二分されているが、性格も、両団体の主要課題も共に相似した点なり、相異な点の方が多い。その主體性の確立、強化に重きを置いて現在のまま両立して行くことが正しいと思う。それがそのまま全日本幼稚園

界の発展への大道ではあるまいか。

(感應幼稚園長)

この秋最初に与えられた良書は「乳幼児と現代の文化」である。

私たちもさきに

A・ゲゼル著 乳幼児の心理学によつて、出生から五才 訳

までの成長発達の

偉大な資料を得た。今又この乳幼

児と現代の文化によつて成長するこ

どもと文化のそれ

それに年令における姿の一般を充分

に理解することが出来る。

この状態にある幼児たちの指導はいかにあるべきかは次の問題である。

その「保育上の技術」の面で物的環

乳幼児と現代の文化

—その発達と指導—



お茶の水女子大学附属幼稚園長

評

健全な愛情は豊かな科学的な基礎の上にたつてゐる。

保育の実際にあたるものは絶えな

い知識の修得こそのぞましいことで

書

及川 ふみ

お茶の水女子大学附属幼稚園長